

目 次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋創一
東京大学教授 文学博士 佐藤信

第一章 上田の道と施設

付録の一例 日報と下記

第一節 主要な道

北国街道 保福寺道 上州道 別所道 称津道

第二節 北国街道

一 成立と道筋

江戸幕府の五街道整備 佐渡路の一つ北国街道 路線の確定経過 北国街道の開設年代

二 街道の施設と整備

宿場 一里塚 並木 口留番所

8

11

8

3

参勤交代の大名 佐渡の金銀と蟻荷 商い荷物

第三節 保福寺道

一道筋と成立

名称と道筋 路線の成立

二 浦野宿

宿の機構 宿の助郷 伝馬賃銭の推移と刎銭 市場立て

三 通行した人や物

大名の通行 松本御城米の運搬 その他の物資の輸送

第二章 上田宿

第一節 上田宿の構成と機能

一 伝馬宿としての上田宿

伝馬宿の成立期 上田宿の範囲

二 上田宿の構成

町役人 軒数と人口の推移

三 伝馬負担

上田宿の伝馬日数と軒数 間口からみた伝馬日数 面積からみた伝馬日数

駄賃銭の推移

四 上田宿の助人馬

助人馬の負担率 助人馬の勤め実態 助人馬の請負

第二節 人や物の継ぎ立て

一 参勤交代の大名

(1) 主な大名の通行実態

月別にみた通行 所要日数と泊まり宿

必要人馬数

宿入金と日録等

(2) 加賀藩関係者の通行

① 日本一大通行

通行コースと回数・月 大通行の推移

上田での初めての泊まり

潤う宿場

② 溶姫の通行

お国入りの理由と日程 上田宿泊の一側面

(3) 上田藩主の出府と帰国

通行の月と必要人馬 行列の一例 日程と下金

二 佐渡の金銀と役人

(1) 金銀銅等の輸送

通行件数と所要日数 輸送時の必要人馬数

(2) 佐渡奉行等役人

通行時の必要人馬数 室賀図書の通行

(3) 無宿人

水替え人足に無宿人を 上田での宿泊事例

三 越後の蟻荷

越後産出の蟻 蟻荷の量と必要人馬数

四 出開帳の通行

(1) 善光寺仏

(2) 江戸・大坂等での出開帳 通行と宿泊の状況 途中開帳
戸隠権現

江戸出開帳 上田宿の寄進人馬

第三節 旅籠屋

一 旅籠屋のたたずまい

菱屋清兵衛の店先 菱屋清兵衛の間取り 真田屋・井筒屋・使者宿など

二 旅籠屋の取極

日暮れての一宿とする 旅人の夜間外出禁止 旅籠屋での夜間商売 旅籠屋の泊まり賃

三 旅人たち あれこれ

上田宿の宿泊旅人数 宿泊する旅人たち 善光寺詣の旅人たち 旅籠屋と芸者・遊女 旅籠屋と宿引き

宿場旅籠屋の経営難

第三章 中山道への助郷

第一節 定助郷等

一 和田・長塗宿

伝馬と助郷の制度化 和田・長塗宿の助郷 道造り掃除の村々 橋造り組合

二 勤めの実態

(1) 長塗宿

助郷勤め人馬の割合 町屋村の勤めの状況

(2) 和田宿

助郷人馬数の推移 安政五年の勤め状況

三

定助郷免除嘆願と休役・代助郷

(1) 嘆願経過

助郷帳にみる嘆願 延享四年以降では

平井寺村の嘆願と成果

(2) 代助郷と勤めの状況

代助郷の申し付け 御嶽堂村の代助郷

代助郷勤めの事例

第二節 当分加助郷

一 和田・長窪宿へ 109

助郷の拡大 和田・長窪宿の当分助郷

勤めの事例

二 佐久郡の宿々へ 113

(1) 加助郷への攻勢

頭越えに埴科・更級郡へ 田中・国分寺組へ

塩尻組へも

(2) 宿場の困窮と増・代助郷 115

疲弊する宿場 梅掛宿の場合 小田井宿の場合 望月宿の場合

追分宿の場合 勤めの事例

三 和宮の下向 119

(1) 大通行の継ぎ立て

特別な大通行 新当分助郷 勤めの事例

(2) 通行に伴う領民負担

お金と物 城と村の見回り 長柄の者とお供人

四 免除嘆願 122

(1) 切なる願い 125

矢澤領にみる事例

第四章 中馬と通船	村柄見分 出府と滞在 嘆願費用
	(2) 塩尻組にみる事例
	上田城付きの村々 江戸留守居役等の働き 御付札と請書
第一節 中馬・間道と宿場との出入り	
一 中馬の発達	
(1) 明和の裁許	137
中馬 中馬稼ぎ村の見分 明和元年の裁許	137
(2) 糸魚川・松本からの荷物	140
尾州の岡船 糸魚川からの物品	143
二 間道・直路	
(1) 大箇街道	143
奥信濃から上州へ 慶安三年の裁許	145
(2) 武石道	143
古くからの間道 弘化の出入り	143
第二節 通船と橋・渡し	
一 千曲川通船	148
二 橋と渡し	148
三 再三の計画 反対理由	151

(1) 加賀川	橋の架け替えと瀬越人足	架け替え工事と藩役人	151	
(2) 千曲川	橋の架け替え人足	船の大きさと船頭給 みご・わら縄と松明	154	
① 諏訪部	諏訪形	諏訪形村での旅人宿泊一件 船渡しの存在	158	
② 大屋	大屋橋の経緯	山辺忠七の刎橋と落橋	159	
③ 大屋				
第五章 庶民の旅				
第一節 お伊勢参り				
一 参宮者				
御師と伊勢宮	同行者数	年齢	上田宿からの参詣者	165
二 出立日と日数	所要日数			165
三 行程と費用				165
コースと日程の事例	費用はどのくらい			170
第二節 旅と病と生・死				177
行き倒れの様相と対応				177